令和 5 年 12 月 10 日アシストジャパンデイサービス 1 号館症例検討会

松山市内市在住の 30 代女性　主病名：左片麻痺

主訴：運動時に左肩・左股関節に痛みが出る。

本人の願い：車いすから、ベッド・トイレの乗り移りがスムースに行えるようになりたい。

<評価・運動療法>

評価

・車椅子座位は、深く腰を掛けバックレストにもたれており、声掛けで浅く座るよう指示すると、右下肢を使用し努力的な様子であった。

・右上肢をプラットフォームつき、移乗動作を行う際に、右下肢の使用はあるが左下肢の参加はほとんどなく性急な動作であった。

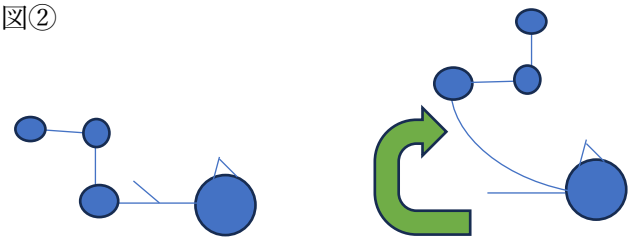
写真①＊骨盤を前に出すよう指示した。

運動療法

①背臥位でのアライメントを確認し。左側臥位にて写真①運動療法を中心に、骨盤から下肢への活性を行い。最後に、上部体幹の活性化を行った。

②背臥位にて股関節･膝関節屈曲位にて骨盤後傾を促しさらに体幹の活性化を図った。(図②)

図②



＊なるべく膝の位置を保つよう促し、体幹の活性化を促す。

③プラットホームにて端坐位から立位への切り替えしを行う。両側下肢への荷重を促せる範囲で繰り返し、両下肢・体幹のコントロールを促していった。その後の移乗は、左下肢を瞬間支持する様子があり、動作に余裕も感じられた。その際に、左肩・左股関節の痛みもない様子であった。

まとめ

背臥位での下部体幹及び上部体幹の動きが活性化することにより、本人が自立的に運動を行うようになっていった。運動時の疼痛も少なく、時間全体を通して痛みの訴えは少なかった。今回の痛みの訴えは、体幹の筋肉が四肢の動きを保証できない状態にある場合に出る収縮時痛であることが一つの要因として考えられる。彼女が日常的に可能な動作を増やし、その動作の修正および協調性・体幹筋のさらなる賦活を促す介入を行うことで、目標としている、移乗動作の自己負担軽減につながると考える。